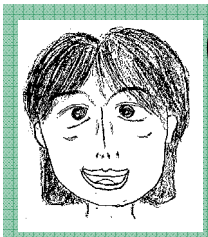
県中的情報源

ナニージャ

発行元　徳島県立中央病院ナニージャ作成委員会
〒770-8539　徳島市蔵本町1丁目10-3
電話 088-631-7151(代)　平成24年1月発行(年4回発行)



眼の国から

～ボルティス特集～

眼科
武田　美佐

あけましておめでとうございます。

日本中が深い悲しみに包まれた、そして局所的に「岡山の悲劇（？）」に泣いた２０１１年が去り（この原稿はなみだ、なみだのJ2最終節の翌日に書いています）、いよいよ２０１２年！そうです！徳島県立中央病院が３９年間エレベータ待ちで始まり、エレベータ待ちで終わる建物から頭にヘリポートのついた新しい建物―もちろんエレベーターはたくさんあります！！―に移転します（いくら予定がのびのびになっても、今年中には。。。いや待て、今まで何度徳島新聞を読んで「え～、またのびたん？」と思ったことか。まあ年末までには。。。）

年の初めといえばやはり１年の計ですね。実は、ジャジャ～ン　この≪なに～じゃ≫に徳島ヴォルティスのコーナーが出来ることになりました～

ぱちぱちぱち

美濃部監督　謝恩会にて

昨年J2の全試合（スカパー！）を見るべく狭いベランダにパラボラアンテナを設置し（せっかくピカラに入ってアンテナなしでケーブルテレビが見れる様になったのに）、毎節（サッカーではなぜか回を節と言います）ヴォルティスの試合の録画を見る夫に付き合っているうちに、だんだん選手の顔もわかるようになり、さらにJ1昇格！？何てことになり、マイブームになりました。

その上、「ヴォルティスの謝恩会に招待されました！」（注：ファンクラブのポイント上位２０名のみご招待）なんてコアなファンが同僚（Y先生）にいたことにびっくり。

柿谷選手とＹ先生の奥様

Ｙ先生

なんとホームの試合は鳴門までバイクを飛ばして駆けつけているそうで。すっ、すごすぎ。ぬくぬくとした部屋でお茶を飲みながら夫が録画したビデオを見て観戦した気になっていた自分が恥ずかしい。でも（と思い切り心の中で言い訳）、子供３人、猫１匹、眼科は一人しかいないし、当直あるし、学会もあるし。。。（当直はY先生も私よりたくさんあるけど）

そこで私にできるエールを送ろうと言うことで、ヴォルティスのコーナーを作ることになりました（ちょっと強引な展開でしょうか？なんくるないさ～）選手のインタビューを交えて、毎回「へえ～、そうなの」と言ってもらえる楽しい紙面にすべくがんばりますので、待ってて下さいね。

いきなりコーヒーブレイク

皮膚科　敷地　孝法

『初めての海外旅行①』

20年も前の話なので、記憶があいまいなところはご容赦下さい。

「シキちゃん、今度ドイツへ行くか？」

先代のＡ教授が突然声をかけて下さった。話によると、昔留学されていたドイツのマンハイム大学の師匠から教授就任祝いの特別講演を依頼されたという。別に私が発表するわけでもなく完璧な観光旅行であると察し、二つ返事でイエスと答えた。

答えたものの何せ初めての海外旅行。パスポートの手配から始まり、クレジットカードの作成、サイン（英語ではsignature）の練習（Ａ教授は英語で芸術的なサインを描く），

スーツケース、肩掛けカバンの購入（ひったくられないよう斜め掛けするため）、等々まずは準備に大変であった。旅行中、公式なディナーが２回あるので正装も用意していくように言われ少し不安がよぎった。これが後々人生最大の緊張感を味わうことになる。

出発当日（確か10月）、初めての関空、ものすごく広い。多国語のアナウンスが飛び交うあわただしい雰囲気に、この人人人。ああ、ついに海外に旅立つのね、私。迷路のようなこの空間、私は金魚の何とかのように教授夫妻（言い忘れましたが奥様：当時徳島大学の麻酔科の助教授もごいっしょです）にただただ付いていくのが精一杯であった。

ドイツに行くと言いましたが、初日はエールフランスでパリへ。教授の友人（石井町藍畑の同級生らしいです）が接待してくれるとのことであった。飛行機は片道13時間。なくならないうちにシャンペンを頼めと教授から耳打ちされたので、もう最初から飲みまくりました。シャンペンの次はワインへ移行。いい加減飲んで眠たくなったが、横ではいびきがうるさいし、肘掛けが一つ占領されているため肩が凝って寝付けない（ナイショですよ）。やっとライトが消えたと思ったらそのうちにおやつタイムで明るくなり、また少し経つとディナーのため灯りが点き、そんなに食えるか！と思いながらも、きれいなお姉様とワゴンが到着すると「シャンペイン、プリーズ。」とまた頼んでバクバク食べてしまう私であった。

パリにいつ着いたのか覚えてないが、凱旋門、エッフェル塔を見た記憶はある。そんな華やかなものよりもむしろ、夕暮れのパリの路地裏が、石畳のせいであろうか、その上を通過する足音や車輪の乾いた音の影響か、小窓が並んだ建物がそう思わせるのか、何かモノトーンで冷たく寂しい印象の方が強かった。

夕食はそのご友人に連れられてパリでフランス料理を食べに行った（この時はラフな服装）。「ボンジュールムッシュ、マドモアゼ～ル。」みたいに歓迎され、おお！テレビで見たことある、この雰囲気。フランスでフランス料理か～と、感激が続くのであった。メインの料理などすべて忘れてしまったが、最初に食べた生ガキだけは鮮明に記憶に残っている。食べろ食べろと勧められ、レモンをギュッとしぼって10個以上食べたと思う。帰国後、この石井町藍畑出身のムッシュにお礼の手紙を書いた。カキを含め料理はたいそうおいしかったし、あの無茶苦茶な交通渋滞の中をまるでメル・ギブソンのようにかいくぐる車の運転はかっこよかったと書いたと記憶している。

結局ホテルにチェックインできたのは夕食後で、これから約１週間は夜は一人で過ごさなければならない。まずはフランスのホテル（プチホテル風）で面食らった。エレベーターが手動式でしかも二重になっていた。うわっ、開かん、閉じこめられた！最初の冷や汗をかいた。何とか部屋にたどり着きシャワーを浴びようとした。浴槽らしきものはあるのだが、非常に浅い。これはシャボンの中で足だけを出してセクシーなポーズをとるためのものなのか。結局そのあたりをビチョビチョにしてしまい、汗を流したつもりが２回目の冷や汗をかいた。

翌朝、集合場所の食堂に向かった。パンとコーヒーの香りとカチャカチャいうカップの音がヨーロッパの朝を実感させた。セミの声ではないが、このカチャカチャ音が逆に静けさと自分の緊張感を増す。

しばらくして教授ご夫妻がニコニコして降りてきた。「どやった？」いや実はお風呂が・・・「そうだろ、ワシもあせったわ！」とのご返答だったので安心した。

～続く～

ご意見箱

（皆様方からいただいたご意見にお答えするコーナーです）

【ご意見】

午前１０時過ぎの予約で外来に来たにもかかわらず、何の説明もなく診察したのが、午後１時３０分頃になった。急患が入ったのかもしれないが、何らかの説明がほしい。

【お返事】

ご意見をいただきありがとうございます。待ち時間につきましては十分な配慮が行き届かず申し訳ありませんでした。診察時間の遅れについてはその時々に説明したり、診察室入口に診察の進捗時間を明示するなど心がけておりますが、再度スタッフ全員に周知し、心配り気配りの看護が提供できるゆお努めてまいります。

はっぴぃレシピ

栄養管理科　管理栄養士　廣瀬　美和

当院では、日清医療食品（株）とともに、患者さんに美味しく安心して食べていただけるよう、県内産の食材を主に使用し、病院給食を提供しています。

今回は、晩秋から初春にかけて旬となるかぶを使った料理をご紹介します。

かぶのカニあんかけ

材料（4人分）

- かぶ3個（正味320g程度）
- だし汁1カップ（200ml）
- カニ缶詰1缶（100g程度）
- 薄口醤油小さじ2
- みりん小さじ2
- 片栗粉小さじ1
- さやインゲン8本

作り方

①かぶは葉を落として皮をむき、食べやすい大きさに切る。

②鍋にだし汁、かぶを入れて煮る。

③かぶが軟らかくなったら、斜め細切りにしたさやインゲン、カニ缶詰、調味料を加えてさらに煮る。

④煮立ったら水溶き片栗粉でとろみをつけ、かぶが透明になるまで煮込んだら火を止め、器に盛りつける。

※かぶの代わりに大根を、カニ缶詰の代わりに鶏ひき肉を使用しても美味しくいただけます。

1人分　50kcal　蛋白質5.2g　脂質0.2g　炭水化物6.6g　食塩相当量1.0g

献立提供：日清医療食品（株）

かぶの葉と油揚げの炒め煮

材料（4人分）

- かぶの葉3個分（240g程度）
- 人参40g
- 油揚げ40g
- ごま油小さじ1
- 薄口醤油小さじ2
- みりん小さじ2
- だし汁60ml（1/4カップと少々）

作り方

①かぶの葉は3cm長に切って熱湯でさっとゆで、ざるにあげて水気をきっておく。

②油揚げ、人参も3cm長の細切りにしておく。

③熱したフライパンにごま油をひき、人参・油揚げを入れて軽く炒め、①のかぶの葉を加えてさらに炒める。

④③に合わせておいた調味料を加えてしばらく火を通す。

⑤煮汁が少なくなったら火を止め、器に盛りつける。

1人分　82kcal　蛋白質3.6g　脂質5.4g　炭水化物5.0g　食塩相当量0.5g

かぶ

かぶは、きれいな白色とたんぱくな味が特徴で、煮物、酢の物、汁物、シチュー等、さまざまな料理が楽しめます。

また、かぶの葉にはビタミンA・Eや鉄、ビタミンC等の栄養素が多く含まれており、シャキシャキとした歯ごたえを楽しめる炒め物に最適です。

ビタミンA・E等の脂溶性ビタミンの吸収を助ける植物油と一緒に調理してみましょう。

酔っぱらいのたわごと

14

小児科
湯浅安人

前回も書いたように、やっぱり不適切なタイトルですが、あと少しなのでお許しを。

ところで三月で中央病院を退職することになりました。理由は諸般の事情です。当初は約三十年も勤務するとは夢にも思いませんでした。

いろいろな患者さんと出会いました。

幼稚園に通いだしたS君は、複雑な心臓の異常をもっていました。手術の危険性を考えて、県外の病院でもあえて手術をしない方針を選んだようでした。M先生が退職のあと、私が見守ることになったのです。かなり無理をして幼稚園に通いだしましたが、やはり間もなく危機的な状態になりました。病室にはお母さんが、廊下には小学生のお姉ちゃんが立っていました。いよいよ延命が困難になったときに、お母さんはお姉ちゃんを病室に連れてきて「お姉ちゃん、Sちゃんが最期にこんなに頑張っているのだから、横でしっかり見ていてあげなさい」と言いました。この時、このお母さんはスゴイと、医師の私でも思わず体が硬くなりました。

その後、数ヶ月してそのお母さんから手紙をいただきました。なかなか気持ちの整理がつかなかったことと、S君が幼稚園で自慢していたことが書いてありました。

「僕の先生なぁ、行ったらいつでも一番先に診てくれるんやでぇ」など。そのあと私もなんともいえない気持ちが続きました。

生後3日の赤ちゃんは、四本の肺静脈が本来の左心房につながっていない心臓病でした。ご両親の希望で、東京の某心臓血圧研究所へ搬送しました。当時はプロペラのYS機でした。一番前の席で、開業医から借用した携帯用の保育器に収容し、大学病院から借用した小さくて軽いアルミ製の酸素ボンベ二本を足下に置きました。羽田に着くと搭乗口まで救急車が来てくれていました。夕闇迫る中、新宿までの混雑した道路をピーポー鳴らしながら走ると、赤いテールランプがサーッと左右にひろがり、（不謹慎ながら）すごきれいな景色でした。病院ではすぐに心臓エコー検査などを行い手術が決定されました。そのときに心臓エコーを担当した先生が、なんと現在小児科にいる森一博医師です。

もし、今後この欄を続けるとしたら「ノンノのひとりごと」になるはずですが、病院職員でなくなるので、ひとまずこれでお別れを。再会する時は、私が中央病院の患者になって、新病院の病室にいる時になる予定です。あっ、でも在院日数がもっと短くなっていて書く時間がないかも

薬剤局スタッフ

【編集後記】

制限時間手前で、なんとかすべりこみゴールした昨年１１月のとくしまマラソン以来、体を動かすことから逃げております。

最近の唯一の楽しみは飯を食うときだけです。体は動かさないのに、異様なまでに飯が旨い！！お菓子も旨い！！

今年のとくしまマラソンも、とりあえずエントリーだけはしましたが、このままでは、この醜くなった体をスタート地点まで運んでいく体力すら消え去ってしまう。

どうしよ・・・

ナニージャ作成委員会　有馬信夫